

【学校経営ビジョン】子どもに「今日も学校に来てよかった！」と感じさせる学校・学級経営～よき伝統の継承・学校内共通の壁の確立・子どもの後ろに保護者を感じる風土の醸成・ATM Mindの尊重						
重点目標	評価項目	自己評価コメント	総合評価	改善及び対策	学校関係者評価コメント	
Ⅰ 生徒指導の3機能を生かした学級経営及び専科指導の充実・児童一人一人が自分の成長を感じる教育活動の充実（児童の居場所づくり）	1 生徒指導の3機能を生かした学級経営を行い、児童の自己肯定感を高めたり、可能性を引き出したりする「褒めて伸ばす教育」を推進している。	○職3、3P、児3、5P、保3、1Pで全体の8割である3、2Pを超える評価となった。 ○生徒指導の3機能（自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的な人間関係を育成する）を生む学級経営を全学級で実施。 ○褒めて伸ばす教育を意識した学級経営を全学級で実施。	3.3	○今後も全ての教育活動において生徒指導の3機能を生むしたり、褒めて伸ばす教育を意識した学級経営を日常的に行なうことで児童の自己肯定感を高めたり、可能性を引き出したりしていく。 ○その子自身のよさ、家庭背景などを知るためにたくさん話を聞き、その子のよさに気づかせしていく。	○全職員の共通理解で全ての児童が風通しもよくなっている。引き続き児童に率直に率直な教訓を教げてほしい。 ○子供の言葉を評価しています。 ○「褒めて伸ばす教育」を評価するには子供と接し、小さな変化に気付くといい職員全体の配慮、目配りも大切であり、上では実行されていると思う。今後は、保護者や地域の方々に浸透することを願いたい。 ○児童の自己肯定感が高まることを望んでいます。 ○一人一人が認められ自信をもって生活できていると実感できることを願っています。 ○子供の笑顔を評価しています。 ○「褒めて伸ばす教育」を評価するには子供と接し、小さな変化に気付くといい職員全体の配慮、目配りも大切であり、上では実行されていると思う。今後は、保護者や地域の方々に浸透することを願いたい。 ○児童の自己肯定感が高まることを望んでいます。 ○児童の評価が低いのは、情報（学校の様子）が伝わっていないのではないか。 ○褒めて伸ばす教育は、大変よいことだと思う。	3.7
	2 児童の実態に応じたお互いの良さを認め合い、助け合い、相手を思いやる道徳教育の充実に努めている。	○職3、3P、児3、6P、保3、4Pで全体の8割5分と評価となり、期待どおりの評価となった。 ○道徳の時間をより、体験学習の充実や多様な価値観に触れる機会の提供、家庭・地域社会との連携など道徳教育の充実を図った。	3.4	○考え、議論する道徳の授業になるようさらに授業改善を行っていく。 ○学級の言語環境もとも大切である。教師の言語環境も意識して整えていく。 ○今後も児童の道徳性を高めるために体験学習の充実や多様な価値に触れる機会の提供、家庭・地域社会との連携に取り組んでいく。	○何を教えるのか、よりも何を考えさせるのか道徳の時間に丁寧な指導を行ってほしい。 ○児童を説教する道徳の授業に子供がどのような反応があるのか期待します。 ○子供たちの間に、多様な価値観に触れる事は大事であり、もっと地域の行事等に参加すべきである。 ○体験学習の充実を！ ○保護者の評価が高いのでよろしいのでは。	3.6
	3 学級活動の時間や避難訓練、保健指導等により自他の大切さに気付き、自分の命をしっかりと守れる教育を推進している。	○職3、5P、児3、7P、保3、4Pで全体の8割5分と評価となり、期待どおりの評価となった。 ○自分や他人の命を尊重し、日常生活を安全に過ごすために必要な知識を理解させ、進んで規則を守り、安全に行動できる能力や態度の育成を図った。	3.5	○避難訓練等の行事を行うと共に、危険予知能力を高める時指導を行っていく。 ○安全教育に関する授業や訓練の実施後も、継続して確認する。 ○児童の安全を第一に考え、定期的な安全点検、修繕を行っていく。	○防犯パトロール等、地域と連携して登下校時の安全な歩行や自転車の安全な利用について指導を徹底してほしい。 ○地域で行われる防災訓練などの参観を学校側でも呼びかけるのはどうでしょうか。 ○常時大切の大切さを認識して評価しました。 ○地域の際、家庭や学校から離れている場合に、どのような場所が危険なのか保護者も用知覚するといいのではないか。車ではなく、徒歩での行き渡し訓練の必要性もある。 ○危険予知能力を身に付けるように今後も訓練等の行事は常時行ってほしい。 ○引き続き継続を命じ大切な事。	3.7
	4 期別目標や個人で設定した学期目標の達成状況を振り返り、児童一人よりよい成長を願う学級活動の実践に努めている。	○職3、2P、児3、2P、保3、1Pで全体の8割である3、2Pとなりほぼ期待どおりの評価であった。 ○各クラス4月当初に学級目標を設定し、学期ごとにアンケート等で振り返りを行った。 ○個人目標についても同じように振り返りを行った。	3.2	○年度初めや学期初めに児童の意見を取り入れた学級目標の設定や個人目標の設定を行い、定期的に振り返りを行うことで自分の成長を実感できる学級活動の充実が必要である。 ○必ず目標の達成状況を振り返る時間を学級活動等で設定していく。	○年度初めや夏季休業中にキャリア・パスポートの研修や説明を行い、使い方、活用の仕方を十分理解して進めていく必要がある。 ○ICT支援員によるキャリア・パスポート（おいろぐ）記入方法についての研修をお願いする。	3.3
	5 自分の成長を振り返る「キャリア・パスポート（おいろぐ）」の活用によるキャリア教育の充実を図っている。	○職2、6P、児3、3P、保3、1Pではほぼ期待どおりの評価となった。 ○学期末にしきキャリア・パスポートを活用していない。 ○職員のキャリア・パスポート（おいろぐ）の活用研修やキャリア教育の職員研修が必要である。	3	○年度初めや夏季休業中にキャリア・パスポートの研修や説明を行い、使い方、活用の仕方を十分理解して進めていく必要がある。 ○職員のキャリア・パスポート（おいろぐ）記入方法についての研修をお願いする。	○もっとキャリア・パスポートを活用すべきである。簡単に活用する方法を考えた。 ○職員の評価が低いのが気になる。	3.0
	6 全教科活動において自分の考えをアピールできる場の設定と教員による適切な評価により自分の成長を感じる教育活動に取り組んでいる。	○職3、1P、児2、7P、保2、8Pではほぼ期待どおりと1P下回った。 ○児童と保護者の「積極的に発表している」のポイントが低い。 ○児童の自分の考えを積極的に発表するような手立てが必要である。	2.9	○お互いの考え方等を認め合う学級経営を行っていく必要がある。 ○学級研究会で全員発表の場を定期的に取り入れていく。 ○児童の授業研究会を通して、よりよい授業、子どもが主役の授業づくりについて研究を深める。	○保護者の評価は参観日の評価なのでしょうか？ ○子供もが主役の授業づくりを評価しました。 ○タブレット等の活用等で児童の頭での発表の場が減ったのではないか？全員発表の場を定期的に取り入れていくべきである。 ○児童・保護者ともに低いのは残念である。積極的に発表できる環境づくりを。 ○発表がいかがなものか。	3.2
2 授業力向上と自己主導性（児童主体の授業づくり）	1 年間授業時数の1割以上「子どもたちが主役の授業づくり（わさびの授業）」を実践している。	○職3、1P、児3、1P、保3、0Pではほぼ期待どおりの評価となった。 ○子どもが主役の授業のために教師が協役微し、児童の動き等の授業の先を読み、児童の微細な変化に気付く授業改善を行ってきた。	3.1	○教材研究をしっかりと行なって、引き続き、子どもが主役の授業づくり（わさびの授業）の研修を行なっていく。 ○本年度の研修の成果と課題を整理し、来年度の研修に生かしていく。	○わさびの授業の実践や研修・授業改善を評価 ○子ども自身を考える時間を十分に与えて、発表させ、子ども全員が主役の授業を期待したい。 ○子どもが主役は、大変いいですね。	3.2
	2児童がタブレット等のICT機器のよさを感じ、学習方法等を自由選択するなど、主体的に学習に取り組むなど児童主体の授業に努めている。	○職3、2P、児3、7P、保3、5Pで全体の8割5分となり期待どおりの評価となった。 ○タブレット等の活用等で児童の頭での発表の場が減ったのではないか？全員発表の場を定期的に取り入れていくべきである。 ○児童の自分の考えを積極的に発表するような手立てが必要である。	3.5	○単元を通して、ICTの活用が効果的な場面を教材研究で考えておく必要がある。 ○今後はICT担当、研究主任、管理職等が中心となって、活用しやすい校内のICTシステム作りを行っていく。 ○教職員のICT活用能力に関する研修が必要である。	○ICT機器の活用も効果的で8割以上が期待どおりの評価を得ていることはしばらく。今後も期待したい。 ○日々の宿題は、どちらのこと、ゲーム感覚でできる学習内容は、よい影響があるけれども、意欲的に取り組む児童が多い。文字の読みをタブレットは読みきらえられるが、読書の時間は、より大切になるのではないかと思う。 ○授業等はタブレット等で行なうよりも、正直な活用をしてほしい。 ○児童の自己評価が高まることはよいことである。 ○タブレット等は完全かならないのでもうやましい。	3.4
	3 教師による授業の終末・単元末・学期末の計画的な学びの実践と児童自身が目標を設定し、児童に取り組むなど児童主体の授業を実践している。	○職3、1P、児3、3P、保3、1Pで全体の8割に値するほぼ期待どおりの評価となった。 ○児童にかかわっているからうどんの始まりや終わり、単元終了時、学期末にミニテストや単元テスト等で確認を行い、確実な基礎、基本の徹底を図った。	3.2	○教師による授業の終末・単元末・学期末の計画的な学びの見届けを確実に行なう。 ○単元テストにおいて児童自身が目標点数を設定し、目標達成に向けた学習への取組を行うなど児童主体の学習方法によるようになる。	○学級が差がないでほしい。 ○学級全体で計画的に児童主体の授業を行い、テスト等で理解の確認をする必要がある。	3.3
3 地域社会との連携による地域活性化（児童主体の地域活動）	1 地域人材（学習支援ボランティアや読み聞かせ）を活用した授業実践に積極的に取り組んでいる。	○職3、1P、児3、1P、保3、2Pで全体の8割に値するほぼ期待どおりの評価となった。 ○地域人材活用人数は、12月10日で延べ321人であり、地域人材の積極的な活用が図れた。	3.2	○読み聞かせ、あいさつ運動、見守り隊等の日常的な学習支援ボランティアへの感謝集会等を行い、食べてくさべて、いろいろ地域の方への感謝の気持ちを伝える場の設定が大切である。	○特別な人材ではなく、「できる人ができる」と常に開かれた学校教育であってほしい。 ○感謝会も聞いていただき、とてもうれしかった。 ○地域人材・地域食材・地域文化等、大いに活用し郷土愛を育んでほしい。 ○多くの方にボランティアに参画してもらい、大変うれしく思う。継続して参加してもらおうと思う。（工夫。） ○ボランティアの数が多い。	3.5
	2児童の主体性を生かした地域貢献活動を実施している。	○職2、7P、児3、0P、保2、0Pではほぼ期待どおりの評価となった。 ○見守り隊や生徒による感謝集会を実施した。 ○地域の方へ向けた運動会案内ポスターを作成し各公民館で掲示してもらった。 ○地域貢献活動を実施することで社会の一員としての役割を意識できるようにしていきたい。	2.8	○児童も地域社会の一員として自分たちにできることを考りさせ、地域の方と触れ合う機会を設定したり、地域貢献活動を実施したりすることで児童社会貢献の意欲がある。 ○校内だけでなく地域貢献活動としての委員会活動を検討していく。	○地域に住む児童にとって近隣とのコミュニケーションは、先ずは、あいさつから。学習では読みあいさつしてくれますが一歩外に出て口に出していく場合があります。笑顔のあいさつは地域力につながります。 ○地域民としているからこそ、協力をねらいでいる。 ○あいさつや感謝集会での感謝の手紙もいただき、大変助かりになり、うれしかったです。 ○地域で行われている行事等を児童に積極的に知らせるべきである。そのためにも、学校が地域の方との連携をとるべきである。 ○引き続き地域貢献活動の充実。	3.2
	3 社会に開かれた教育課程を開き、児童の郷土愛を育成している。	○職2、9P、児3、6P、保2、6Pではほぼ期待どおりの評価となった。 ○教職員の社会に開かれた教育課程の趣旨理解が必要である。 ○児童は、上長板地区は好きであるが保護者は、子どもの将来の就職先は、都城とは考えていよいようである。	3	○社会に開かれた教育課程の趣旨を踏まえた教育課程の編成が必要である。 ○上長板地区の人・もの・ことを取り入れた教育課程において、上長板地区のよさを児童に伝えていく必要がある。 ○社会に開かれた教育課程の地域・保護者への周知が必要である。	○働き方改革の推進で業務の効率化及び簡略化はありますが特に新任の教職員に対する実践的指導を強化してほしい。意欲をもって教員になったのにその後の学級の環境によって教員としての力量に差が生じることも否めない。初任者の指導力向上に期待したい。 ○業務の効率化及び簡略化はもとでできるのではないか？教員の研修や提出物等、責任者となる人は軽視すべきである。 ○職員と保護者ももっと密になり、働き方改革をもっと進めるといい。	3.0
4 教職員の資質向上（人づくり）	1 業務の効率化及び簡略化による働き方改革を推進し、教職員が教職を中心とした質の高い教育活動に専念できる環境になつていている。	○職2、8P、保3、4Pではほぼ期待どおりの評価となった。 ○教職員の働き方改革のために業務の効率化及び簡略化が特に必要である。 ○教職員の時間外勤務時間が4時間以内になつた職員は、70%であった。	3.1	○教職員の意見を聞きながら更なる業務の効率化及び簡略化に努める。 ○教職員の働き方改革のために業務の効率化及び簡略化が特に必要である。 ○教職員の時間外勤務時間が4時間以内になつた職員は、70%であった。	○教職員に対する実践的指導を強化してほしい。意欲をもって教員になったのにその後の学級の環境によって教員としての力量に差が生じることも否めない。初任者の指導力向上に期待したい。 ○業務の効率化及び簡略化はもとでできるのではないか？教員の研修や提出物等、責任者となる人は軽視すべきである。 ○職員と保護者ももっと密になり、働き方改革をもっと進めるといい。	3.0
	2 外部講師による研修など校内外研修の充実を図り、職員の資質向上に努めている。	○職3、3P、保3、3Pで全体の8割を超える評価となった。 ○九月小坂元教諭による学級づくりを基盤としたわさびの授業等の講話と職員研修を行なった。 ○明和山下石指導教諭の教科書を活用した算数授業の教材研究と授業実践の講話を職員研修で行なった。	3.3	○本年度の校内研修の振り返りを行い、成果について継続して取り組み、課題については改善し校内研修の充実を図る。 ○来年度も学校課題に応じた外部講師の招聘や校外研修を実施し教職員の資質向上に取り組む。	○教職員や専門能力スタッフの質向上に取り組む研修は、今後も楽しんである。 ○学校課題に応じた研修等は必要であるが、地域の職場への体験等、教員間係から離れた経験も人間向上に必要ではないでしょうか。 ○引き続き研修の充実。	3.0
	3 校内JTの推進を図り、ミドルリーダーの育成を図っている。	○職2、8Pではほぼ期待どおりの3を0、2P下回っている。 ○日常的に教職員との対話を図っているが教職員が成績感・達成感をもてるような指導助言や支援までには至っていない。	2.8	○校内JT推進のための職員研修を実施する。 ○校内JT推進のための校内分掌を行い、校務部長や学年主任を核に校内JTを推進し教職員の資質向上を図る。	○職員同士の横つながりが強い。（児童の気になることを相談したところ、すぐして学年単位で対応してくれた。） ○学年主任を中心として学年単位の機能の活用を今後も期待したい。 ○若い先生が多いのでベテランの先生から細かな指導をしてもらいたい。	3.0
	4 管理職との対話を大切にし、必要な指導助言及び支援を行うことにより教職員が日々の業務等に対しても成績感・達成感をもてるようしている。	○職2、9Pではほぼ期待どおりの3を0、1P下回っている。 ○日常的に教職員との対話を図っているが教職員が成績感・達成感をもてるような指導助言や支援までには至っていない。	2.9	○教職員に対して報酬相を徹底し、組織で対応できるようにする。 ○相談等に対して、今後の流れ、支援の仕方等を具体的に指導助言し、教職員が成績感・達成感をもちやすいようにする。	○業務の簡略化を進め、教職員が余裕をもって勤務できるようすべきである。 ○風通しのよい職場づくり。 ○校長・教頭・教務主任を中心に組織づくりがうまくいっている。	3.0

\* 自己評価コメント欄の数字は、「職」が職員の評価の平均ポイント、「児」が児童、「保」が保護者のアンケートの平均ポイントです。